

鳥禽図（ちょうきんず）伊藤若冲 筆

～稀代の絵師 <いとう じゃくちゅう> になりきって描いてみよう～

琵琶湖文化館の所蔵作品が
「ぬりえ」になりました！

近年絶大な人気を集める江戸時代中期の画師・伊藤若冲（1716～1800）。若冲は京都錦小路で青物問屋を営み、40歳で隠居してから本格的な作画活動を始めたとされています。先人が描いた絵を模写して学ぶ従来の画壇のあり方に疑問を抱いた若冲は、現物の写生から真の姿を表現しようと、自宅の庭で数十羽の鶏を飼って生態をつぶさに観察するなど、実物のリアルを追い求めました。本図は、若冲が30代の頃に描いた初期作品として注目されています。



鳥禽図 伊藤若冲筆
江戸時代
（琵琶湖文化館蔵）

画面の上部から屈曲した松の枝が垂れ下がり、突き出した奇形の岩上に尾羽を長く垂れた一羽の色鮮やかな錦鶏きんけいが描かれています

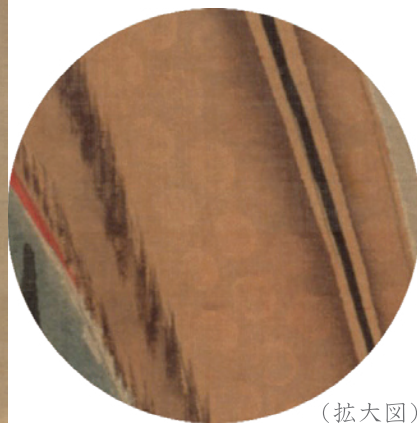
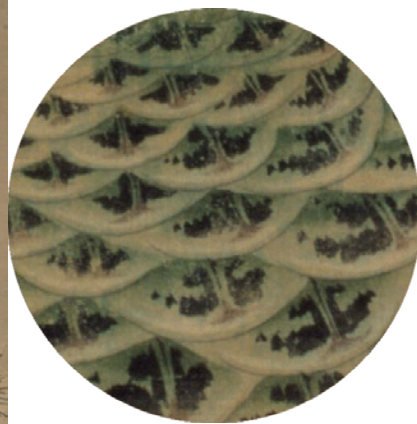
華やかな色彩を重ねる羽毛は、濃淡を微妙に使い分け丹念に描き込まれています。

このような図様は、若冲どうしよくさいえの代表作「動植綵絵」のひとつ「雪中錦鶏図」に先行するもので、早くから動植物に対する鋭い観察眼が備わっていたことがわかります。

署名はなく、「藤女釣印」と「若冲居士」の二つの印章が捺されています。



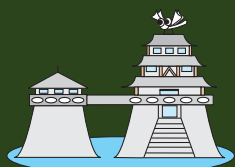
ぬりえ
チャレンジ



（拡大図）

琵琶湖文化館webサイトでも拡大画像を見ることができます。

文化館webサイト



滋賀県立琵琶湖文化館
〒520-0806 大津市打出浜地先
http://www.biwakobunkakan.jp
biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp

メールはコチラから！



描いた「ぬりえ」をメールか郵便で送付すると、琵琶湖文化館のウェブサイトで紹介されます。気軽にチャレンジしてみよう！